



KSKS

花の会ニュース

2025年7月号
no.205

編集人/ 社会福祉法人 花の会 広報委員会 連絡先/ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9

TEL 072-692-2859 FAX 072-693-3603

★WEB <https://hananokai.info/>

★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp

発行人

関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

定価100円

2000年12月12日第三種郵便物承認

毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行



第42回 花の会総会 を開催しました！

6月14日(土)、花の会総会・交流会を高槻城公園芸術文化劇場にて開催しました。

午前の部は例年通りの年次報告、職員永年勤続表彰に加え、「地域の中で自分らしくを わたしたちも一緒に」というテーマで、富田町病院看護部永久教子様に、ご講演をいただきました。

午後の交流会では、メンバーによる活動発表、各事業所や HKU(家族会有志)による歌やダンスの披露などがありました。

ご参加いただいた方、ありがとうございました。今年度もみんなで力を合わせて頑張っていきたいと思います。



「右下がり」の方向って？

今回も訃報から始めなければなりません。5月1日、花の会の活動を担っていただいた白石朝子様が、永眠されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

白石さんとは、手前味噌な思い込みで言うと、率直で前向きな方だったので、普段の話ではあまり説明的なことを素っ飛ばして相談できる方でした。ワーカーの「センスが一番」という持論をお持ちで、セン

スって何だろうかと、相当以前に話したことが思い出される。

今は、当事者研究という分野で有名となっている北海道の浦河べてるの家が2002年に発刊した『べてるの家の「非」援助論』(医学書院)の中で、向谷地生良さんが「右下がりの方向」にも人生の楽しさが見つかるよ、というような趣旨の記載があったように記憶している。当時は、「あー、なるほど」、「そういうこともあるよね」程度での理解だった。人間としての常識として「発達」を要求されることが、メンバーの生涯に大きな庄となり、その結果として心の困難を抱える存在となっていることを知る中で、右上がりでないといけないという常識化した庄が、メンバー・支援者の世界にも蔓延していると感じられるようになった。

個人的にも、年を取ることで体力だけでなく、いろいろな能力も劣化していく。その中、ない能力があるかの如く思い込んでいる自身を見ることがある。常に発達・上昇しなければいけない、していると思いつく、そんな世界に生きているのだと感じるようになった。

センスの話で言うと、メンバーに寄り添う、寄り添える感性を持つということとは、天性のものもあるだろうが、メンバーやワーカーに対する深いところでの共感によって自然な対応が生まれてくるのだが、白石さんとはワーカーにとって何が大事で、どのような下地から感性が生まれてくるかと話すよりは、今は、ワーカーの現状は、よく話した。

金沢の徳田茂さんのひまわり教室も50年を経過したそうで、いつも「大人が変わると、子どもが変わる」ことを伝え続けてきた。非対称といわれる支援と被支援の関係の中でどのような対等性が形成できるのか、白石さんがいうセンスにどう応えられるのか、毎日の実践の中で考えていきたい。白石さんに、「こんなエピソードがあるんですよ」と伝えられる、みんなが共有できるモノを創っていききたい。

(やまだのかかし)

仕事も遊びも、いろいろ考えてんねん

もりもと
森本

しんじ
真治さん

森本 真治さんのプロフィール

- 🌸 年齢:60 歳。
- 🌸 グループホーム「つくし」のメンバー。
- 🌸 「花の会」との関わり
花の会の立ち上げから参加され、就職されましたが、退職されてからはワークたんぽぽに在籍されていました。
- 🌸 昨年、就職活動をされ、2024年4月からリサイクル業者でお仕事をされています。
- 🌸 趣味・・・買い物(ファッション)など

今回は、グループホーム「つくし」をご利用中の森本 真治さんにお話を聞きました。



Q どんな幼少期を過ごされましたか？

森本： 松原町周辺が遊び場で、松原小学校に通っていた。松原小学校の一期生です。今でも小中学校の同級生と飲み会を1年に1回してる。同級生に飲み会をしたいと電話で相談して、声をかけてもらっています。20人くらい集まる。

Q 同級生とどんな話をしますか？

森本： 「身体のあちこちがボロボロになってきたなあ」って話したり、中学校卒業以来会ってなかった同級生には「生きてたか？」とお互いに話す。亡くなった同級生の連絡を聞いたり、いい話がない時もある。飲み会に集まる前に赤ちょうちんできゅーっと飲んで行こうかと誘われる。「お金がない」って言うのと「しゃーないなあ」って奢ってくれる(笑)。友達で(「ワークたんぽぽ」で販売している)ポップコーンとか買ってくれる人もいる。



Q 花の会との関わりはいつからですか？

森本： 中学校卒業後に行き場がなかった。学校の先生と山田さんと話をして花の会を作った。花の会が

活動の場になった。「社会参加しましょう」「家にばかりいる子を作てはいけない」って話をしていた。

花の会が集まる場になっていった。そこで一般就労に行きなさいと言われて、1か月だけ花の会にいた。就職が決まって、高槻市の公園清掃の仕事をした。15歳から49歳まで34年間働いた。(周りからは)1～2年で辞めると言ったと言われた。55歳までは働いたろうと思って頑張った。50歳前にごちゃごちゃして肩たたきされた。辞めてからすぐにワークたんぽぽを利用して、グループホームを利用できるように立石さん(元職員)に頼んだ。1年待たなあかんと思ったけど3か月で行けた。

Q 約10年利用していたワークたんぽぽから、就職活動しようと思ったのはなぜですか？

森本： 働いた分、お給料が増えるから。



Q 今はグループホームで生活して、リサイクル業者で働き始めての生活はどうですか？

森本： 北大樋のグループホームなら職場まで1分で

行けるけど、(近くで買い物できるところが)関西スーパーくらいしか大きなスーパーがないから、「つくし」もええかなあ(笑)。(北大樋なら)55分まで寝ていても間に合う。

就職してからワーたん(ワークたんぽぽ)へは行っていない。お金は沢山もらって、今までは(一日の小遣いが)700円やったけど1,000円になった。300円は大きい。10日間貯めたら3,000円になるねんで。飲みに行ったら5,000円払えるけれど友達には3,000円でいいって言われる。お金ないのを知ってるから(笑)。ぶつぶつ言いながら誘ってくれる。また今度はどこ行くんやろ?一泊旅行かな?

Q 一泊旅行に行くことがあるんですか?

森本: 行ったことはないけど、行こうかって言われたことはある。飲み会の幹事は1年ごとに変わるねん。新しい幹事が旅行に行こうって言われたら行きますよ。赤福食べに行きたい。小学校の時、伊勢で一泊旅行に行った。年いってから行こうと思ったなら行けるやん。



Q 懐かしさもあって、楽

しみですね。楽しみといえばマッサージ受けてるって聞きましたけど?

森本: 足がピーンとしたままやからカチンカチン(と言ってふくらはぎをさすられる)。マッサージされたら気持ちいい。週に3回来てもらっている。1回30分。マッサージの日は寄り道せんと帰ってる。ホン



マは寄り道したろうと思うけど帰ってる(笑)。

Q これからどんな生活を送りたいですか?

森本: 誰に気兼ねするでもなく一人で出かける。妹に行きたいところを伝えて遠出した。定年は65歳と言われてはいるけれど、足が痛いから仕事は動けるうちに考えようかな。(メンバー、世話人問わず)会話のキャッチボールができる人が欲しい。食事の準備ができたから食べたいな。



徳野: 本日はありがとうございました。食事の準備ができているのに、インタビューに答えてくれてありがとうございます。

編集後記

同級生との飲み会のエピソードなど、いまでも小学生からの付き合いが続いていてホーム、職場以外にも居場所があり、楽しみにされていることがお話しをされている表情からも伺えました。会話のキャッチボールについて、表面的な仲の良さではなく、日頃からお互いが理解し合って、気持ちが通っている繋がりを求めておられるんだなあと感じました。これからも永く付き合って会話のキャッチボールができていると実感される関係性を築いていかなければいけないと思われました。



(取材:フラワーホーム 徳野 裕季)

夫(Kさん)を信じて支えた日々 ～ 中途障害から再び社会へ～

Kさんご家族

今回の花の会ニュースでは、就労支援センター
フォルツァを経て企業へ就職されたKさんのご家族
にお話を伺いました。

Kさんの病気の発症から現在に至るまでの道のり、
そしてご家族としての思いを、ありのままに語って
いただきました。

■「仕事が生きがい」だった日々

夫は長年、医薬品の営業職として働いてきました。
毎日車で開業医の先生方を回り、薬の値段交渉から
納品まで一手に担う、責任のある仕事でした。仕事熱
心で、家庭のことは私に任せきり。でも愚痴ひとつ言
わず、ずっと前を向いていました。

私は同じ会社の総務にいて、夫とは同期入社。仕
事ぶりには厳しさもありましたが、後輩を大切にし、
誰よりも仕事に熱い人でした。家庭ではあまり家事
はしませんでした。子どもに対しても徐々に優しく、
良い父親になっていったと思います。

■ 病気の発症と、命の危機

主人がある日突然、脳出血で倒れました。医師から
は「命に関わる状態」と告げられ、すぐには手術もで
きず、家族で一週間の生死をさまよう状況に耐えま
した。娘はまだ小学5年生。「お父さんが私のことを
忘れるかもしれない」と告げた時の切なさ、今でも
胸に残っています。

手術は無事成功し、夫は意
識を取り戻しましたが、重い
記憶障害が残りました。本人
は過去のことはわかっても、
新しい記憶が定着しにくく、
「なんでこんなに覚えられへ



んのやろう」と嘆いていました。リハビリの日々が始
まりましたが、復職への希望が彼の支えとなり、少し
ずつ前を向いていく姿を見守りました。

■ 復職、そして退職という選択

夫は会社の配慮もあり、一度は復職しました。けれ
ども、高次脳機能障害に対する職場の理解は十分で
はなく、通勤・業務・人間関係において大きな壁があ
りました。朝5時半に出て、私がメモ
を作り、道順を付き添って覚えてもら
う…。そんな二人三脚の毎日でした。



職場環境の変化と見えない負担の積み重ねにより、
夫は少しずつ精神的に追い込まれていきました。「辞
める」と口にしたときの様子は、本当に限界だったの
だと感じました。仕事に誇りを持ち、家族を支えてき
た夫にとって、退職は簡単な決断ではなかったと思
います。それでも私たちは、「ここまで頑張ってくれて
ありがとう」という気持ちで送り出しました。会社側
も誠実に対応してくださり、退職金も支給され、夫も

少し肩の荷を下ろせたようでした。

■ 就労移行支援との出会い

退職後、ハローワークや就業・生活支援センターを経て、「就労支援センター フォルツァ」と出会いました。複数の事業所を見学した中で、ここが最も安心でき、夫に合っていると感じました。職員の方々の温かさ、施設の落ち着いた雰囲気が決め手でした。

夫は最初、過去を振り返るプログラムに戸惑いを見せていましたが、徐々に支援員の方との信頼関係が築かれ、次第に心を開いていきました。毎日の通所で生活リズムが整い、顔つきにも変化が見られました。家族としては、「外に安心して送り出せる場所がある」ということが何よりの救いでした。特に、本人の障害特性に合わせて柔軟に対応してくださる姿勢や、焦らず一歩ずつ伴走してくださる支援の在り方に、深い信頼と感謝を覚えました。

■ 新たな職場と、今

フォルツァでの訓練を経て、夫は企業への就職を果たしました。当初は、「自分にできるだろうか」と不安を抱えていましたが、今では周囲とも良好な関係を築き、「毎日元気に出勤できている」という事実が、私たち家族にとって何よりの喜びです。

職場では、記憶障害を理解し、業務を工夫してくださる方々がいます。道順を示すサインや業務の手順書など、目に見える支援があることで、夫も自信を持って行動できるようになりました。また、昼休みなどに社員の方と軽く会話する場面もあるようで、「仲間の一員としてそこにいる」ことが夫の自尊心を支えていると感じます。過去ではなく、今の自分を受け入れてくれる環境に出会えたことが、本人にとっても家族にとっても、かけがえのない前進となりました。

■ 同じ境遇のご家族へ

正直に言えば、ここまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。私は福祉の知識もなく、最初は一人で抱え込み、必死で対応していました。でも、

フォルツァのような場所や相談機関に繋がることで、支え合える仲間や専門家ができ、気持ちがとても楽になりました。

だから、同じような立場にあるご家族には、「どうか一人で抱え込まないでください」と伝えたいです。手を伸ばせば、支えてくれる人が必ずいます。そして何より、家族を信じてあげてください。小さな一歩でも、きっと未来に繋がっていきます。

● スタッフより

Kさんとは、自立訓練の頃から長く関わらせていただきましたが、本当に一つひとつの積み重ねが大きな変化につながった方だと思います。最初は不安や戸惑いも多かったはずなのに、毎日コツコツ通いながら、少しずつ表情が明るくなっていくのが印象的でした。ご家族の支えもあって、支援側の私たちも「一緒に頑張ろう」と自然に思えるような関係が築けたと思います。就職された今も、その姿勢は変わらず、職場でもしっかり頑張られていて本当に嬉しいです。

これからも「無理せず、でも前向きに」一歩ずつ進んでいてほしいなと思っています。



編集後記

Kさんのご家族のお話からは、「信じること」「待つこと」「共に歩むこと」の大切さが強く伝わってきました。

支援の現場に携わる私たちも、メンバーの方の「家族の想い」を受け止め、より良い支援に繋がっていきたくと改めて感じました。

温かいお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

（取材：就労支援センターフォルツァ 高橋 利恵）

困った時はお互いさま

いずぶち さとみ
出淵 里美さん

出淵 里美さんのプロフィール

- 🔑 2008年、第2共働舎花の会のワーカーとして入職。
- 🔑 第2共働舎花の会、第4共働舎花の会「チューリップ」を経て、現在は再び第2共働舎花の会のワーカーとして活躍されています。
- 🔑 休日は、みんなの予定が合えばご家族でカラオケに行くことも。出淵さんと長男さんは聞く専門、ご主人と次男さん・長女さんは歌う専門だそうです。
- 🔑 ストレス発散は猫ちゃんをなでることと、甘いものを食べることに。



今回は第2共働舎花の会で支援員として活躍をされている出淵 里美さんにお話を伺いました。

Q 入職の経緯を教えてください。

出淵：もともと福祉系の仕事に就きたいと思っていて、大学も社会福祉学部で、卒業後は児童養護施設で働いていました。

そこは結婚を機に退職して、高槻に引っ越してきて…しばらくは子育てに専念していたんですけど、やっぱり子どもを育てるにはお金もいるし、ぼちぼち働こうかなと思っていたところに、ハローワークでたまたま花の会の求人を見つけたんです。

上の子2人が年子で、2歳と1歳の時だったので…、お休みとか自宅からの距離とか、子育てと両立するための自分なりの条件がいろいろとあったんですけど、それに花の会が該当したんです。ほんとに偶然見つけて…しかもたまたま正規職員の募集だったので、チャレンジしてみたら運よく採用してもらえた、という感じです。

それでいうと、はじめは障害福祉にこだわりはなかったですね。せっかく社会福祉を学んできたので、それを活かせる職場ならいいな、と考えていました。

Q 仕事をする中で、印象に残っていることを教えてください。

出淵：第2共働舎花の会で担当していたメンバーのことなんですけど、毎朝登所されたら、私は皆さんに挨拶していたんです。でも一人、まったくお返事をしてくれない方がいて…。でも私もあんまり気にせず、その方を含めみんなに挨拶はずっと続けてたんですね。そしたら、だいぶ経ってからある日突然その方が「おはよう」って返してくれたんです。めっちゃびっくりしたし、こっちが言ってることをちゃんと聞いてくれてたんやって分かったのがすごく嬉しかったです。

しかもその日から、そのメンバーが割と続けて「おはよう」って返してくれるようになったんですよね。それがまた嬉しくて、思わずご家族さんにも報告しました。

あきらめずに繰り返し関わっていくのが大切だになって実感できた体験で、すごく印象に残ってます。

Q 仕事をしていて楽しいなと感じるのはどんな時ですか？

出淵：イベントの時とかに、メンバーがすごく嬉しそうだったり、楽しそうにしているのを見たり、一緒に体験したりするのは私もすごく楽しいですね。仕事の時とは全然違う表情をされるので、こちらとしても一緒に関わっていて気持ちがあがってくるといいます。

今は交流会に向けて、当事者会担当の職員が中心になって準備を進めているんですけど、みんな頑張ってる練習中で…。こういうイベントを楽しみにしてはる人も多いです。もちろん苦手な人もいてるんですけどね。みなさんちょっとずつ慣れてきてるし、楽しそうにしているところを見ると、頑張ってる準備して良かったな、と思います。準備と片付けはめっちゃ大変なんですけどね。本番の楽しい雰囲気は伝わるんじゃないかな。

Q 働いていて、自分自身が変化したと思うことってありますか？

出淵：できるだけ感情的にならないようにはなったかな…。あとは、メンバーやワーカーに対して言う言葉の選び方・伝え方っていうのはすごく気を付けるようになったと思います。やっぱり自分が言われて嫌な言葉やったり、言われ方…、例えば偉そうな言い方で言われたりするのって、そりゃあ他の人も嫌やろなと思うので、そこは気を付けるようになりました。

Q いつも穏やかなイメージがあります。感情的だった時期ってあるんですか？

出淵：他の職員からも割と「そんな風には見えないね」とは言われてきたんですけど、やっぱり人間なんで(笑)。イラっとする時も正直あります。でも、できるだけそれを出さないようにというか、前よりもぐっとこらえられるようになったかなと思います。

相手が人なので、うまくいかないこともあるし、中には他害が出るメンバーもいるので、気持ちが揺らぐ時もあるんですけど。「これは仕事や…」と、冷静になるようにはしています。100%できているかと言われると、できていない時もあるんですけどね。

Q 支援で大切にしていることを教えてください。

出淵：なるべくたくさんのメンバーと関わりを持つことは大切にしています。関わる中で「今こんな表情やけど、なんかしんどいかな？」とか、「なんかイライラしてるかな？」みたいなことを、気付けるようにしたいと思っていて。でもそれは、普段の様子を知っておかないと分かんないんですよね。なかなか言葉で伝えられない方が多いし…。だから、できるだけいろんなメンバーの変化に気付けるように、いろんな人の様子を広くまんべんなく見るようにしています。

ワーカーとしても、特定のメンバーに気を取られてしまったり、気に掛けるメンバーが偏ってしま

うってというのはよくあることなんですけど、私ももうベテランの域に達しているんで…、自分の班に限らず他の班も、「第2共働舎(花の会)」っていう大きなチームとして気に掛けるようにはしています。

でもそれは私に限らず、結構ワーカーみんなそんな感じかも。自分の班以外も気にしながらやっているので、何かあった時にフォローし合える所はいいなと思っています。

困った時はお互いさまというか、助け合っていくっていうのは、みんな思ってるんじゃないかな。

Q 花の会の今後について聞かせてください。

出淵：メンバーもそうだけど、ワーカーも安心して花の会で働けるようになったらいいなという思いがあります。今新しい職員さんも入ってきてくれるので、花の会に来て良かったなと思ってもらえるように、自分なりになんかできたらいいなと…。

例えば、花の会で初めて福祉業界に入ったという方もいらっしゃるし、メンバーと関わる中でびっくりすること多いと思うんです。でもそういう時に、「メンバーのこの行動にはこんな意味がある」とかが分かれば、少し安心して関わったり、見方も変わってくるんじゃないかなあと思って。そのあたりを伝えられるような存在になればいいな。

日々バタバタしてしまって、なかなかそういう話をする時間が取れないのが申し訳ないんですけど…。

編集後記

本当に穏やかで優しい話し方をされるのが印象的でした。

以前から「こういう先輩がいたら安心する」というイメージがあったのですが、今回直接お話を聞く中で、その安心感は、出淵さん自身の周りへの気配りや、相手のことを考えて話を聞く・話すという意識があってこそなんだな、ということを改めて実感したインタビューでした。

(取材:田淵 彩子)



日中活動支援の報告 生活介護

新メンバー 紹介 コーナー



ゆき ふうが
幸 風駕さん

今年の3月に茨木支援学校を卒業し、4月からスイートピーと一緒に活動しています。

初めの頃は緊張や不安から表情が硬く、振り向くと必ず私の後ろにいました。しかし2か月が過ぎ、表情も明るくなり笑顔も増えてきています。今では拭き掃除を担当され、いろいろな作業にも挑戦中です。

（スイートピー 吉牟田 ゆき江）

いけだ れいこ
池田 礼子さん



今年の3月に高槻支援学校を卒業し、はなみずきA班で元気に活動しています。今は主にお菓子づくりの仕事に取り組み、毎日コツコツがんばっています。

手先がとても器用で、お手本を見せるとすぐにコツをつかんで、丁寧に取り組む姿がとても素敵です。周りのメンバーからは「かわいい！」と大人気で、いつも先輩メンバーたちがそばにいて、にぎやかで和やかな雰囲気の中で過ごしています。

これからも、作業や行事を通していろいろなことにチャレンジし、楽しいことなどたくさん経験していけたら嬉しいです。

（はなみずき 渡邊 あず咲）

おおかわ そうしろう
大川 颯史朗さん



今年の3月に茨木支援学校を卒業し、4月より第2共働舎花の会で活動しています。

初めて登所した日は緊張していましたが、日に日に慣れ、他のメンバーたちの様子をのぞいてみたり、事業所内に響いている音を声でまねるなど、楽しんで過ごしています。歌も上手で、よく「さんぽ」の歌を歌ってくれます。

最近はジェスチャーで思っていることを伝えたり、肩をたたいてくれたりと積極的にアピールしています。

もっとたくさんコミュニケーションを取り、楽しく活動していきたいです。

（第2共働舎花の会 西島 夏美）

第57回 花の会バザーの報告



2025年5月18日(日)に、第57回花の会バザーを開催しました。当日は650名ほどの地域の皆様のご来場がありました。

ありがとうございました！！

今回も、家族会の皆様、就労、児童やグループホームのワーカー、ボランティアの方（高槻市ボランティアセンター・大阪医専・地域の方々）にも協力をい

ただき、無事に開催することができました。前日の準備の時に雨が降り、レイアウトを急遽変更するなどしました。当日も雨が心配されましたが、お天気に恵まれました。

今後もバザーを地域の皆様との貴重な交流の機会として、楽しんで参加していただける様に試行錯誤していきます。物品のご提供もいつでもお待ちしております！引き続き、ご協力よろしくお願いいたします。

（第2共働舎花の会 渡邊 朋幸）

天候に恵まれた花の会運動会、盛り上がりました

4月26日(土)、高槻支援学校グラウンドにて、恒例の花の会運動会が開催されました。

当日は天候が良く過ごしやすい気温で、まさに運動会日和。開会式直後はパン食い競争、みんな一気にテンションアップ。続いては玉入れです。花の会の玉入れは変わっていて、カゴ担当がカゴを背負い、逃げます。そのカゴを追いかけて投げ入れます。今回はボランティア参加してくれた学生さんがカゴ持ちとして大活躍してくれました。借り物競争では、カードに書かれた

お題に沿った人探し!? 観覧に来ていたメンバーの家族の方々も大活躍、仲良く手をつないで一緒にゴールするシーンも見られました。

みんなハツラツとした表情を浮かべながら、花の会運動会2025は幕を閉じました。

（第4共働舎花の会 黒田 哲）





児童通所支援の報告

「児童通所支援を学ぶ会」から考えること



7月1日(火)、高槻市主催(企画運営:高槻障害児者団体連絡会)で「児童通所支援を学ぶ会」を開催しました。このニュースが配布されている頃にはもう終わっていると思いますが、原稿作成時は開催前です。前回の開催時には、会場に入りきらない程の方が児童通所支援制度について、また通所支援事業所との個別相談会にお越しになりました。最近の報道で出生数が70万人を初めて割り込むなど児童数は減少し続けていますが、高槻市では受給者証を取得し児童発達支援・放課後等デイサービスを受給する児童数は右肩上がりで、2012年時点で549人、2023年で2,285人となりました。近年の人数は調べきれませんでしたが、この増加の傾向は変わっていません。制度の充実が図られる一方、社会モデルの視点で考えると、この「支援ニーズの急増」はどう見えるでしょうか。



昨今の利用児童数の増加は、「障害の捉え方が広がっている」、「支援を必要とする子が増えている」と言われますが、「社会モデル」の視点で見直してみると、また違った見え方になります。社会モデルとは、「障害」は個人の機能的な問題ではなく、社会の側にある「障壁」によって生じるものであるとして、「子どもが問題」なのではなく「多様な子どもを受け入れられない社会」のあり方が問われる考え方です。今、放課後等デイサービスや児童発達支援の利用が増えている背景には、集団や制度の「包容力」「余白(余裕)」の低下も要因の一つではないでしょう

か。つまり、学校や園で対応できる範囲が狭くなり、従来ならそのまま過ごせていた子どもたちが「支援の対象」となり、「専門的な支援」が必要として振り分けられている可能性があります。また、家族や地域のつながりが希薄になり、家族が子育ての困難さを抱え、「どう育てていいかわからない」「この子には特別な支援が必要かもしれない」と感じた時、家族はまず制度に頼らざるを得なくなります。これは支援制度への信頼でもあります。同時に社会の側・子育ての人と人の横のつながり、育み、“共同性”が薄れているようにも感じます。

支援の輪が広がり、選択肢が広がりました。さまざまな経験を積むことができ、成功体験や失敗体験など…幅広い視点で子ども一人ひとりに向き合い、素晴らしい取り組みをされている事業所はたくさんあります。そのこと自体は歓迎すべき流れですが、制度の枠組みが整備されるほど分離が進み、「制度の中でしか過ごせない子どもたち」が増えてしまうリスクがあることも同時に考えていくことが必要かもしれません。大切なのは、「特別な場所」を作るのではなく、通常の生活や学びの場との架け橋となり、子ども達が自分らしく過ごせる場所が「支援の場」だけではなく、地域や学校、家庭という「いつもの場所で」増えていくことかもしれません。支援ニーズの増加という現象を、子どもの問題としてではなく、社会全体の課題として捉え直す必要もあるのではないかと感じました。皆様はどう思われますでしょうか。

(さくらクラブ 平田 昌史)

熱中症注意！

しっかり水分補給、無理のない計画で夏を楽しもうー！



梅雨の後期、目まぐるしく変わる天気。突然の大雨、うだるような暑さ。そして本格的な夏の到来…、子ども達が大好きな「夏休み」が、もうすぐそこまで近づいています。児童部門では、これからが大忙しの時期になります。長期休暇でないとできないような取り組みも各所で子どもたちと一緒に考えていますので、お楽しみに！

ですが…、何せこの「暑さ」です。水遊びや外出することが多い時期ですが、安全と健康状態について、しっかり一人ひとりの様子を見ながら、無理のないよう活動を行っていきたいと思います！



(さくらクラブ 平田 昌史)



地域生活支援の報告

はいびすかす

新事務所・新体制でスタートします

サポートセンターはいびすかす 新住所
高槻市宮田町2-34-5
☎ 072-669-9519

6月6日、サポートセンターはいびすかすはフラワーホーム事務センターへ引っ越ししました。

今回、フラワーホーム事務センターの事務所に引っ越したことで、ヘルパーからは遠くなった方、近くなった方とそれぞれに一長一短ありますが、これまでは電話やメールでやり取りしていたことが、事務センターの職員や世話人と顔を合わせて話せるので、ちょっとした相談もしやすくなりました。

フラワーホームで勤務されているヘルパーの方々と、情報共有が身近でできるようになりました。同一敷地に移転したことで、フラワーホーム「ぽん」・「ぽこ」のメンバーや日中から販売に来られるため、メンバーと接する機会も増えました。ホームの企画担当者とも支援調整などもスムーズに行うことができていると実感しております。

現在、はいびすかすでは、人材不足により新規の利用申込、依頼を受けても十分にお応えすることができておりません。それを、少しでも改善するため、ガイドヘルパー養成研修(移動支援課程)の実施を年度内に予定しております。ヘルパーの人材確保に繋がりたいと思います。

なにぶん、新たな体制となり、管理者とサービス提供責任者が着任して間もないところではございますが、互いに協力し合いながら、皆様にとってよりよいサービスが提供できるよう日々、努めてまいります。

至らぬ点も多いかと存じますが、引き続きのご理解と、ご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、事業所移転にご協力いただいた皆さま、誠にありがとうございました。

(サポートセンターはいびすかす 廣瀬 裕子)

レスパイト

「強度行動障害支援者養成研修」を受講して

～ かかわりを大切に ～

この花の会ニュースが皆さんのお手元に届く頃には梅雨が明けているでしょうか。もうすぐ学校が夏休みに入ります。私がレスパイトに来て3年が経ちますが、その間の子どもたちの成長ぶりには驚かされるばかりです。今年高等部3年の人が何人か利用されていますが、来年の今頃はどんな新しい生活が待っているのか、ご家族ともども期待と不安が入り混じっているのではないのでしょうか。

さて、先日スタッフの一人が「強度行動障害支援者養成研修」を受講しました。この研修は厚生労働省の定めにより行われるもので、強いこだわりや自傷・他害などの行動がみられる人に対して専門的な知識を以って支援にあたる人材を育成することを目的としています。研修は2日間行われますが、たった2日間で支援スキルが大きく変わるということはないと思います。それでも障害の特性や人の心理など基本的な知識を身に着けた上で、日々の支援現場に戻れば新しい発見につながることを期待できるでしょう。国は昨年度から重度障害者への対応に力を入れていて、この研修を修了して資格を取得した場合、加算が取れることになっています。レスパイトでは4名がこの資格を持っています。そして重度加算の対象となる利用者はかなり多く、全体の半数近くになっていますので、研修への参加はレスパイトの運営に大きな意

味があるといえます。

一方で、研修で教えられる「構造化」などの支援技術はなるほどと思う反面、日常生活の中でどれだけ活用できるのか疑問も残ります。支援の場で専門的な知識と技術を駆使することは、プロの支援者として一目置かれることになるかもしれませんが、支援する側とされる側という分断を生む危険性もあることに気を付けなければいけません。メンバーが障害者である前に一人の人間であるのならば、私たちも支援者である前に一人の人間であるはずで、目の前にいる人をありのままにとらえてその持てる力を信じ信頼すること、自分のことを知ってもらうこと、そして常識にとられない柔軟な思考で起こった出来事を解釈していくこと、つまりは関係を大切にすること、そしてすべては関係の中で起きているという視点が支援のベースに必要なのだと思います。レスパイトは多くの人が利用します。その一人ひとりがみんな違った人間です。その違いを受け止める懐の広さがスタッフには求められると感じています。技術を学ぶことも必要ですが、世の中にあるいろいろなものを見て聞いて感じて考える、そうした日々の営みが支援の幅を広げることにつながるのではないかと考えている今日この頃です。(花の会短期入所事業部 橋本 好司)





就労相談支援の報告

新入職員

お力になれるよう、頑張ります

4月より高槻市障がい者就業・生活支援センター（就ポツ）にて庁内実習の担当として入職いたしました神村 優佳です。10年ほど前に事務職としてセンターで勤務させていただいており、再び働くことができ嬉しく思っています。知識も経験も乏しい中、皆さん温かく迎え入れてくださり居心地よく働かせていただいています。

先輩方の傍で勉強させていただくことが多いのですが、経験を踏まえた見解や視点に気付かされることばかりです。質問しやすい空気をつくっていただい

ているおかげで、支援時の声掛けからたんぼぼ亭のおすすめメニューまで何でもかんでも聞いてしまっている日々です。

周囲の皆さんに恵まれているな、と感じることばかりですが、10年前も同じようなことを思っていたような気がします。また、そんな感想だけで終わらないように、関わる方々の力になれるよう努力していきたいと思います。

（高槻市障がい者就業・生活支援センター 神村 優佳）



神村 優佳さん



新入職員

経験を生かし、全力で取り組みます

就ポツ

高槻市障がい者・就業生活支援センター（就ポツ）の増田 貴文です。この6月より、新たな一員として加わりました。

私には知的障害のある兄がおり、その経験から自然と福祉業界に興味を持つようになりました。前職では、就労継続支援B型事業所と放課後等デイサービスで勤務しており、障害をお持ちの方々の「働く」ことと「育ち」を支える喜びを学びました。

就ポツでは、皆様の就労や生活を幅広く支援できることに強いやり甲斐を感じています。入社してまだ日は浅いですが、これまでの経験を活かしつつ、先輩方から日々学びを深めています。

一日も早く業務に慣れ、利用者様お一人おひとりに寄り添ったサポートができるよう、積極的に学び、精進してまいります。

休日は、新日本プロレスの観戦に行くのが趣味で、月に1回ほどのペースで会場に足を運び、選手たちの熱い戦いから、いつも元気をもらっています。この活力を仕事に繋げ、皆様のお役に立てるよう全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（高槻市障がい者就業・生活支援センター 増田 貴文）



増田 貴文さん



新入職員

多角的な支援を目指して

サポステ

こんにちは。田中 保千代と申します。以前は高槻市障がい者・就業生活支援センターとフォルツァでお世話になっていましたが、家業の不動産会社を引継ぐため修行に出ていました。現在は不動産会社での宅建業務と家業の管理業務を兼務しています。

6月から三島地域若者サポートステーション（サポステ）でお世話になることとなりました。温かく迎えてくださって皆様に感謝しております。私は安定した生活、住居問題や地域社会に興味を抱いており、その

上で福祉と宅建の連携は重要だと考えています。将来的には両者の専門性を磨き、多角的な支援を目指したいと思っています。

サポステでの業務は初めてのこともいっぱいですが、1日も早く業務を覚えお役に立てるよう頑張りたいと思っています。宜しくお願いします。（三島地域若者サポートステーション 田中 保千代）



田中 保千代さん



法人の報告

社会福祉法人 花の会 2024年度の事業報告

2024年も「共に学び、共に働き、共に生きる」という理念のもと、私たちは支援や地域活動の充実に向けた取り組みを進めてまいりました。世界的な物価高騰や慢性的な人手不足など多岐にわたる課題に直面する中、特に人件費の増加に対する事業収入の伸び悩みは事業全体の見直しを必要とし、各種加算の取得や稼働日数の調整、賞与額の調整や事業の統廃合など多角的な経営改善に努めました。またメンバーの高齢化が進行する中、日中活動の場（たんぽぽ亭移転検討）や生活の場（6月 GH 梶原開設）の整備を進め、地域共生社会の構築に向けて引き続き取り組んでいきます。

財務面においては、本業の収益であるサービス活動収益は、前年度決算から100,369,139円増加の1,370,420,722円となりました。費用は前年度決算から11,487,435円増加の1,320,610,220円となり、結果として49,810,502円の黒字となりました。3年連続の赤字からは脱却できたものの、この黒字化は賞与削減という職員の痛みを伴うものであったことを重く受け止めており、引き続き経営改善に努めてまいります。

（業務執行理事 成瀬 修）



法人単位事業活動計算書

（自）2024年4月1日（至）2025年3月31日 （単位：円）

| 勘定科目 | | | 当年度決算 | 前年度決算 | 増減 |
|-----------------------|------------------------------------|---------------|---------------|---------------|--------------|
| サービス活動増減の部 | 収益 | サービス活動収益計（１） | 1,370,420,722 | 1,270,051,583 | 100,369,139 |
| | 費用 | サービス活動費用計（２） | 1,320,610,220 | 1,309,122,785 | 11,487,435 |
| | サービス活動増減差額（３）＝（１）－（２） | | 49,810,502 | △ 39,071,202 | 88,881,704 |
| サービス活動外増減の部 | 収益 | サービス活動外収益計（４） | 24,720,530 | 18,074,997 | 6,645,533 |
| | 費用 | サービス活動外費用計（５） | 13,423,364 | 7,818,373 | 5,604,991 |
| | サービス活動外増減差額（６）＝（４）－（５） | | 11,297,166 | 10,256,624 | 1,040,542 |
| 経常増減差額（７）＝（３）＋（６） | | | 61,107,668 | △ 28,814,578 | 89,922,246 |
| 特別増減の部 | 収益 | 特別収益計（８） | 11,483,476 | 109,125,496 | △ 97,642,020 |
| | 費用 | 特別費用計（９） | 7,530,866 | 106,369,258 | △ 98,838,392 |
| | 特別増減差額（１０）＝（８）－（９） | | 3,952,610 | 2,756,238 | 1,196,372 |
| 当期活動増減差額（１１）＝（７）＋（１０） | | | 65,060,278 | △ 26,058,340 | 91,118,618 |
| 繰越活動増減差額の部 | 前期繰越活動増減差額（１２） | | 491,521,775 | 541,685,115 | △ 50,163,340 |
| | 当期末繰越活動増減差額（１３）＝（１１）＋（１２） | | 556,582,053 | 515,626,775 | 40,955,278 |
| | 基本金取崩額（１４） | | 0 | 0 | 0 |
| | その他の積立金取崩額（１５） | | 1,700,000 | 0 | 1,700,000 |
| | その他の積立金積立額（１６） | | 5,707,000 | 24,105,000 | △ 18,398,000 |
| | 次期繰越活動増減差額（１７）＝（１３）＋（１４）＋（１５）－（１６） | | 552,575,053 | 491,521,775 | 61,053,278 |

2000年12月12日第三種郵便物承認 毎月（1・2・3・4・5・6・7・8の日）発行
発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町2・2 東興ビル4階 定価100円